

令和8年度
行政視察報告

川俣町議会
予算決算常任委員会

1 調査事項・方法

- (1) 山形県遊佐町を訪問し、少年議会及び地域みらい留学について説明を受け研修を行った。
- (2) 岩手県紫波町を訪問し、予算・決算審査における議員会討議及び中学生議会について説明を受け研修を行った。
- (3) オガール（紫波町内）を訪問し、公民連携による駅前公有地活用オガールプロジェクトについて説明を受け研修を行った。

2 調査期日

令和8年4月21日（火）から23日（木）までの3日間

3 調査参加者

予算決算常任委員会	委員長	蓮沼	洋志
	副委員長	菅野	信一
	委員	藤野	圭史
	委員	藤原	正
	委員	高橋	文雄
	委員	山家	恵子
	委員	石河	ルイ
	委員	高橋	清美
	委員	新関	善三
	委員	菅野	清一
	委員	高橋	道也

同行職員

学校教育課

教育次長兼学校教育課長

学校教育推進員

議会事務局（随行）

議会事務局長

主事

4 調査報告

- (1) 山形県遊佐町における少年議会に関する取組について

遊佐町の面積は208.4km²で、鳥海山（2,236m）の山頂から日本海へ延びる裾野までが町の面積に数えられる、雄大かつ海あり山ありの自然豊かな町である。

また、庄内平野の端に位置しているため、見渡す限りの田園風景が広がり、米作りが盛んな農業地帯でもある。また、夏には特産の岩がきが採れ、多くの観光客で賑わう。砂地を活用し栽培するメロン、スイカなどの生産量も多いとのこと。まさに、漁業と農業が混在する地域である。

さらには、鳥海山の伏流水を使い日本酒の酒蔵やウイスキーの蒸留所

も存在し、その銘柄が道の駅にずらりと並んでいた。



[遊佐町位置図](#)



[鳥海山からの景色](#)

(引用：遊佐鳥海観光協会)

さて、平成15年から行われている「少年議会」であるが、その当時の小野寺町長が「時代を牽引するのはいつも若者である」との考えから、英国ミドルズブラ市で行われていた若者を行政に参画させるシステムを参考に「少年議会」としてスタートさせたとのこと。今年で24期生を迎える大変歴史のある取り組みである。

町内在住の中学生・高校生を対象に直接選挙により少年町長、少年議長などを選ぶ訳だが、落選した生徒は少年事務局長など様々な役職に就任し、特に役職上の上下関係は無いとのこと。だが、しっかりと主権者教育がされているため、町の選挙の若者の投票率は高いとのこと。

学校行事等の関係上、毎年6月から11月までを活動期間として約20回の全員協議会を開催し、活動の方向性や多くの活動成果をあげている。基本的に、担当の町職員が誘導することなく、自主的に協議が進められるとのこと。令和7年の「少年議会」の活動は令和6年の豪雨災害を経験したこともあり、防災イベント「ゆざまち防災キャンプ」を開催し、約40名の参加者が実践による防災知識を学んだ。

また、過去の少年議会活動の成果としては、「ゆるキャラ」というトレンドをいち早くキャッチし、遊佐町の公式ゆるキャラ「米～ちゃん」の開発をするなど、多くの実績をあげている。

町は政策実現の予算として毎年45万円を計上し、その他の雑費等を含めると約100万円の予算を使い、実践的な若者によるまちづくりが行われている。

応募定員を11名としているが、町内にある遊佐高校で県外留学生の募集を始めたのを機に、多くの県外留学生がこの「少年議会」へ応募をしていることにより、ここ最近では定員を大幅に超える生徒が集まり活動を行っている。



[米～ちゃん](#)

(引用：遊佐町ホームページ)



研修の様子

(2) 山形県遊佐町における地域みらい留学に関する取組について

山形県の「県立高校再編整備計画」により、1年生1学級の学校については入学者数が2年連続して入学定員の2分の1に満たない場合は、原則としてその2年後に募集を停止とするの方針により、遊佐高校の廃校を防ぐため2019年から地域みらい留学の募集を開始した（令和2年～令和8年で述べ40名の県外留学生の受入れ実績）。

また、この地域みらい留学は全国的な広がりを見せており、令和7年度に全国募集を行う公立高校は約170校となっており、今後もさらに増えていくとのこと。

遊佐高校の地域みらい留学生の受け入れコンセプトとしては、都市部の在校生の多い高校では感じることのできない、少人数校ならではの自己実現やアイデンティティを生徒に体現させ、また、遊佐町の地域住民とのふれあいを行政が積極的に支援することで、地域の一員としての役割を引き出すことにより、遊佐町を愛する気持ち、第二の故郷という郷土愛の醸成を大きな柱にして地域みらい留学に取り組んでいる。その実績として、遊佐高校卒業後、酒田市の大学に遊佐町に住みながら通う大学生もでてきているとのこと。

地域みらい留学の説明をしていただいた遊佐町職員の滝口氏は企画課に所属しており、企画課がメインで教育委員会はサポートに回っている印象を受けた。実際に滝口氏の説明の中に、全国でも約7割が教育委員会以外の部署が地域みらい留学の業務担当としているとの説明があり少し驚いたが、留学事業と移住定住施策を並列で展開させる手法を知ることが出来た。スポーツに特化した募集や海外留学が出来るなど、様々な切り口はあると思うが、公金を投入する以上、県外留学生に地元に対する愛情を醸成する支援がなければ、町民理解も得ることが出来ないと思う。

また、実際に使われている学生寮の見学をさせていただいた。共有スペースのみの見学であったが、町内の空き家をそのまま使用し派手さはまったく感じられない質素なものであった。このような学生寮が合計4棟あるとのこと、ご近所の住民がより行き来しやすい距離感であると

感じた。



空き家を利活用している学生寮

(3) 岩手県紫波町における議員間討論の導入について

紫波町は人口約3万3千人（高齢化率31％）の町で、盛岡市のベッドタウンとして位置づけられており、また全国的にも有名な公民連携を活用した駅前開発「オガールプロジェクト」の成功により、若い世代の流入がどんどん増えており、大きな人口の減少がない町としても近年注目を浴びている自治体である。

紫波町議会議員は18名（うち7名女性）が在籍し、会派による代表質問があるとのこと。また、議会基本条例も制定しており、「賛否を決める前に、賛成・反対を対立させるのではなく、議員同士で考え方を確認することが大切」との方向性を定めており、まさに議案議決に対する議員の姿勢が表れている議会であると感じた。

また、予算決算常任委員会の開催に際に、2つの分科会に分かれて論点を協議（議員間討論）する時間を日程に組み入れて実施しており、各委員は議員間討論による情報共有や意見の違いを見出しながら討論を繰り返す、方向性を探る作業を行う。この取り組みは、「議論の府」である紫波町議会を作り上げるといった武田平八議長の思いが中心にあるのではと思う。

(4) 岩手県紫波町における中学生議会に関する取組について

中学生議会は平成2年に議会300回を記念して開催されたとのこと。直近では令和6年11月に行っており、特段開催のルールは設けていないとのことだったが、改めて中学生の目線からの質問の鋭さに関心をしたとのこと。

紫波町には3つの中学校があるため、その調整にはかなりの時間等を費やさなくてはならないのではと感じた。熊谷事務局長からも、学校に負担のならないよう配慮をしているとの説明もあったように、調整のハードルの高さと何を目的に行うのかを明確に全議員が共有して実施しな

ければならないと強く感じた。



研修の様子

(5) 岩手県紫波町におけるオガールプロジェクトについて

オガールプロジェクトとは、紫波中央駅前にある10.7haの塩漬けになっていた土地を「民間主導型の公民連携」により、「公用・公共施設整備」と「民間の経済開発」の両立を図ることを目的としてスタートさせたプロジェクトである。

前々町長の藤原孝氏（1998年当選、4期）の旗振りで、駅前の一等地にPPPという新たな手法により始めたプロジェクトであったが、当時は住民からも不安視する声があがり、マスコミからも連日の様に「実現性への疑問の声相次ぐ」や「駅前になぜ役場」と言った批判的な見出しで論調が報道された。

しかし、町長はじめ町担当者はブレずにプロジェクトの内容を説明するために、町民意見交換会を100回／2年という、単純計算で毎週1回開催を2年間続けたという取り組みには驚愕としか言いようがない。H19年に実質交際費比率が23.3%と早期健全化基準目だった紫波町の、まさに背水の陣で挑んだプロジェクトだったと強く感じた。

さらには、東洋大学大学院にPPPの可能性調査を依頼したものの、基本計画は町職員独自で策定し、また、あらゆる場面でコンサルタントに委託しなければならなかったが、最後は職員たちで考えながら前に進めていったことが重要なプロセスだったとの担当者の説明にもあったように、人任せでなく、最後までやり通した結果が「オガール」として実を結んだのだと感じ取ることが出来た。

10年間塩漬けの28.5億円で購入した10.7haの広大な土地ではあるが、その土地自体には何の価値もない。様々なアイデアをその土地に投入してエリアを形成し価値を高めることで、新たな投資が行われ不動産の価値が上がる。オガールプロジェクトはまさにその信念から生まれた複合エリアなのだ。



オガールエリア内の公園と図書室

エリア内には、保育園、小児科医、体育館（バレー専用）、サッカー場、スポーツジム、美容室、居酒屋、スーパー、宿泊施設、分譲住宅地、役場庁舎などなど、あらゆる業態が集合し、ひとつの町を形成していると言っても過言ではない。また、建物が北と南に長く並列して建設されており、その中央に設置される緑地帯は公園として開放され、夕方には多くの放課後児童らが集まり大声で笑いながら遊んでいた。夕日に映るその光景にどこか懐かしさを覚えた。

研修の最後に担当者の長谷川氏と佐々木氏と談笑をし、「このプロジェクトは数々の賞を受賞し、全てが順調に動いている印象です。羨ましいですね。」に、佐々木氏から「課題は山積しています。ひとつひとつ解決しながら進んでいる感じですね」と意外な言葉が返ってきた。研修資料にあったこのプロジェクトの仕掛け人である藤原孝前々町長の言葉「走りながら考えろ」を思い出した。



研修の様子

令和8年度
行政視察報告
(委員毎)

川俣町議会
予算決算常任委員

令和8年5月15日

川俣町議会議長 様

委員長 蓮沼洋志

令和8年 川俣町議会予算決算常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	予算決算常任委員会所管事務調査
2	日時 調査地	令和8年4月21日（火）～22日（水） 調査先名 遊佐町
		令和8年4月23日（木） 調査先名 紫波町
3	参加者	15名（議員11名・事務局2名・所管課長等2名）
4	研修内容及び まとめ (意見・感想)	<p>①遊佐町における少年議会について</p> <p>【内容】 少年町長、少年議長公選事業が始まったのは、2003年に設立された。当時の遊佐町は、人口減少、少子高齢化の影響もあり、遊佐の町づくりをしていくのは若者であるという事から、この事業が始まったということです。少年議会には、政策実現のため年間45万円の独自予算が設けられています。少年議会では、年間全員協議会が、15～20回開催されております。少年議会では遊佐町イメージキャラクター「米ちゃん」をつくりあげ、又防災キャンプを開催したり遊佐町PRの為に葉の制作にも携わった。又、防災キャンプを開催したり、多くの町内イベントの開催にも参加し遊佐町お盛り上がる活動をしてきた。</p> <p>【まとめ】 *遊佐町の少年町長、少年議員公選事業が始まって23年という伝統と歴史があり全員協議会の開催も中高生の部活もある中で午後6時以降に実施する中で御父兄の子供達の送迎が必要とする中で子供達の為、快く対処してくれている事も大変素晴らしいと思います。又、少年議会では公選で落選しても、議会事務局や監査役などに役職について頂き、一丸となって遊佐町の発展のため様々な町のイベントや少年議会で企画したミュージックフェスティバルやその他沢山の行事に参加している事を思うと少年議会だけじゃなく遊佐高校全員が地域のイベントに参加して町を盛り上げている様子が伺います。地域の皆様と協力して町の賑わいや町民の笑顔が見える活動は何よりも価値のある事だと思います。</p>

<p>4</p> <p>研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>		<p>②遊佐町における遊佐高校地域未来留学について</p> <p>【内容】 遊佐高校は、全日制(男女共学)総合学科、生徒数70名、県外生徒数14名で学生寮は、タイプ:シェアハウス(個室)ハウスマスター設置、調理者配置(地元の方々)、夕方に出勤して夕食を調理して宿泊、朝食を準備し後片付けをして帰るといった勤務体制をとっています。シェアハウスが5戸あり15人で回して勤務しているそうです。学校の特色ある取り組みとして(1)インターンシップがあり2年生の4月より半年間実施、週に一回企業に通勤しながら働くことを学ぶ機会をつくっている。(2)選択制導入、2年生からは充実した選択科目の選択が可能になる。遊佐高校の社会的役割として、人や地域社会との関わりを大切に地域を元気にする人間を育成するとあります。</p> <p>【まとめ】 遊佐高校の「三つの方針」(スクール・ポリシー)がありその中でも入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)があり○故郷の文化や伝統を大切に、ちいきを元気にするいよくがある生徒を募集します。○ボランティア精神があり、他者と協働し地域社会に貢献しようとする生徒を募集します。とあり担当者の方も留学生については、本人とご両親との話し合いをしっかりとシェアハウスに入居し地域の行事に参加できるかどうかを確認して判定すると言っておられました。素晴らしい教育方針だと思います。留学生の寮についてもお金をかけないでシェアハウスにしたことも正解だと思いました。それに比べますと当町の留学生寮対応はお粗末だと思います。</p>
<p>4</p> <p>研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>		<p>③紫波町における議員間討論について</p> <p>【内容】 紫波町定例会3月の日程表を見てもわかる通り2月27日から3月27日まで、1ヶ月間に渡って慎重な審議をしていることがわかります。二つの文科会に分かれて論点等を協議(議員間討議)を経て、その後、委員会で各文科会の結果を報告しあい、全体協議を行なっています。文科会における議員間討議には執行者は同席しない。三月会議で四回、九月会議で五回実施している。論点については議員間で話し合いを十分に議論を尽くすことで議決に係る説明責任が果たせるようになったとあります。</p> <p>【まとめ】 当町では予算決算の審議は委員会の所管の各課の審議はしますが、全体の委員会では、その報告はしていません。全体で予算決算の審議はしますが、論点を全体で議員間討議をする事はまれです。紫波町の様に分科会で議論して報告して課題について議員間討議することは殆どない。議会を構成する議員が議員だけで議論し一定の結論を出すとともに、その結論に至った理由についても議論の経過を含めて説明する事ができる様にする必要があるということで、個々が十二分に理解出来ている事の大事さが、つたわってきます。</p>

<p>4</p> <p>研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>		<p>④紫波町における中学生議会について</p> <p>【内容】 紫波町中学生議会については2年ぶり5回目の中学生議会が役場庁舎3階議場で開催された。町内の3中学校から第一中学校から12人、第二中学校から3人、第三中学校から3人、18人が選出されました。以前は学校にすべて依頼していたが、令和6年は、議会議員が学校に出向きクラスごとに事前学習を行い中学生議会の事を全員が理解した上で代表議員を選出して頂いた。9月に各中学校に議会議員が出向き中学生議会についての説明をし10月に中学生議会議員の名簿を提出して頂き質問内容の通告をして頂き内容調整をし11月23日(土)中学生議会招集、当日午前中にリハーサルを行い午後本番に臨む。3中学校から18人が質問席に登壇。町の未来や課題について質問や提言を行いました。今回は、町政を担う各部署の部長や課長が答弁を行い中学生の鋭い質問に答えました。</p> <p>【まとめ】 町内の3中学校から18人が質問席に登壇。町の未来や課題について質問や提言を行い中学生が地方自治の仕組みや議会の役割を肌で感じ理解を深める事は大事な事だと思います。勉学や部活、議会活動と忙しい学校生活になると思います。地域の行事に参加して様々な人との出会いもありボランティア活動や議会活動を通して学校では学べない事が沢山あると思います。その活動が個人の視野を広げ様々な人との出会いから人間関係の大切さや人への想いやりや優しさなど培われていくものだと思います。</p>
<p>4</p> <p>研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>		<p>⑤紫波町におけるオガールプロジェクトについて</p> <p>【内容】 公民連携による町有地開発という事で広大な土地に民間保育園や小児科、運動場や体育館バレーボール施設、宿泊施設や食料品売り場があり図書館もあります。紫波中央駅も請願駅として開業駅のプラットホームは企業と町民の寄付で整備、駅周辺は県住宅供給公社から購入460戸の宅地を分譲した。民間主導型PPPの成功例</p> <p>【まとめ】 オガールプロジェクトは紫波町町有地を活用して、県フットボールセンター オガールプラザ オガールベース 紫波町役場 エネルギーステーション オガールセンター オガール保育園などを整備した。公民連携PPPの成功例だと思います。</p>

令和8年5月11日

川俣町議会議長 様

副委員長

菅野信一

令和8年 川俣町議会予算決算常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	予算決算常任委員会所管事務調査
2	日時 調査地	令和8年4月21日（火）～22日（水） 調査先名 遊佐町
		令和8年4月23日（木） 調査先名 紫波町
3	参加者	15名（議員 11名・事務局 2名・所管課長等 2名）
4	研修内容及び まとめ (意見・感想)	<p>①山形県遊佐町「少年議会について」</p> <p>【内容】</p> <p>① 少年議会の概要について説明を受ける。（別添「令和7年度第23期少年町長、少年議員、公選事業活動報告書」参照）</p> <p>② 質問事項についての回答。（質問事項は別紙のとおり。）</p> <p>③ 質疑応答。</p> <p>【まとめ】</p> <p>遊佐町少年議会は、当時の時代情勢に危機感を持った当時の町長が、地域の若者が主役となり、町への愛着や関心を持ち、自分たちの力で町の問題解決につながるようにと2003年この事業が誕生し、昨年度（令和7年度）で23年目となる。</p> <p>この事業は、遊佐町と周辺地域の中高校生の中から、少年町長及び少年議員を選挙で選び、選挙後、その役職（町長、議長、議員等）にそれぞれ実態と同様の機能、権限、予算を与え、実際に政策提案及び議会活動を行っている。</p> <p>町教育委員会が中心となり人材育成の一環として幅広く活動しており、当議会が検討している「議会改革の一環としての模擬議会」とは、目的も実施内容も大きく異なる。</p> <p>人材育成としての同様の少年議会の実施は、町当局（教育委員会）が主体とならなければ実施困難であり、議会の所管を離れることとなることから、当議会としては、他町村の多くの議会が行っている、「模擬議会」を参考に検討すべきと考える。</p>

<p style="text-align: center;">4</p>	<p style="text-align: center;">研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>	<p>②山形県遊佐町「遊佐高校魅力化（地域未来留学）について」</p> <p>【内容】</p> <p>① 遊佐高校「地域未来留学」の概要について説明を受ける。（別添 「遊佐高校魅力化について 2026.4.22 ・山形県立遊佐高等学校魅力化推進計画」参照）</p> <p>② 質問事項についての回答。（質問事項は別紙のとおり。）</p> <p>③ 質疑応答。</p> <p>【まとめ】</p> <p>遊佐高校魅力化プロジェクトは、特色ある学びや活動ができる総合学科として全国公募することで、高校の存続、IJターン、関係人口の増加及び地域の担い手づくりにつながるビジョンがある。高校の魅力化は、町の人口動態や関係人口化に良い影響を与え、持続可能な地域を創ることにつながるとの確信の元に実践されている。</p> <p>高校魅力化の意義として、地域課題の解決等を通じた探究的な学びを推進し、地域ならではの新しい価値を創造し、地域を支える人材を育成する。地方公共団体や産業界等との連携・協働した実践的な職業教育を推進し地域経済の活性化を目指すことが挙げられている。</p> <p>7年間（令和2～令和8年度）で、県外生40名の実績を上げており、卒業生には、遊佐町役場に就職した者。進学後、町内で活動を展開する者もあり、高校魅力化の成果に手ごたえを得ている。</p> <p>県外留学生の受け入れについて、寮は空き家を改修し、シェアハウスのような形で3～5人共同生活をさせ、食事や生徒の管理（学生の監護）は、15名の寮母（生活相談員）が輪番で行っている。</p> <p>そのほかにも、生徒募集やPR活動を行うコーディネーター（4名）県外生の生活支援を行うハウスマスター（現3名。2名増員予定）の人的支援体制が整っている。</p> <p>本町の川俣高校魅力化向上推進事業も、単なる生徒の確保策に留まらず、地域の担い手づくりや交流人口の拡大、移住増等、町の将来につながるような戦略的ビジョンが必要ではないか。</p> <p>また、生徒数の確保のために、他の地域未来留学校に劣らない寮と生活支援体制の充実に力を入れるべきではないか。</p>
--------------------------------------	---	--

	研修内容及び 4 4 まとめ (意見・感想)	<p>③岩手県紫波町「議員間討議について」</p> <p>【内容】場所：岩手県紫波町役場 会議室</p> <p>① 予算決算審査における議員間討論の導入についての説明と質問事項についての回答。(質問事項は別紙のとおり。)</p> <p>【まとめ】</p> <p>議会における議決責任・説明責任を円滑にするため及び議案に係る課題・論点整理の共有化を図る目的のため、平成24年3月議会から導入されている。</p> <p>議会(所管委員会)における議決について、議員個人に説明責任があり、説明者に対する質疑を中心とした、審議、審査だけでは説明責任を十分果たすことができないとの認識のもと議員間討議の必要性があるとされている。</p> <p>当議会にも本会議の議決の際に討論はあるが、一方的に反対、賛成の意見を述べるに過ぎず、議論の深まりはない。</p> <p>議案の議決は、多数決であり、反対意見の切り捨ての意味もあることから、採決前に、議員同士が十分に議論することは、論点の確認、問題意識等の共有化に有効であり、議員の相互理解につながり、議会力の向上につながるものである。</p> <p>当議会における議員間討議の導入について、前向きに検討する必要があると考える。</p>
--	---------------------------------	--

<p style="text-align: center;">4</p> <p style="text-align: center;">研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>	<p>⑤岩手県紫波町「公民連携オガールプロジェクトについて」</p> <p>【内容】岩手県紫波町役場 会議室</p> <p>① オガールプロジェクトの概要説明 ② 施設視察</p> <p>【まとめ】</p> <p>紫波町は、平成10年に請願駅「紫波中央駅」が開業するのに合わせ、駅前の土地10.7haを28.5億円で取得するが、財政難で10年間塩漬け状態となる。</p> <p>平成21年に、「公用公共施設整備」と「民間の経済開発」の両立を目指した、民間主導型の公民連携による駅前公有地活用オガールプロジェクトの為に、自治体出資法人オガール紫波（株）が設立された。</p> <p>このプロジェクトは、東洋大学と紫波町が「地域再生プログラム第1号」として協定を締結し、30年計画の具現化、町全体の発展につながる開発としてアメリカ型のPPP手法による都市整備が始まることとなる。</p> <p>政策目的を持つ事業が実施されるにあたって、官と民が目的決定、施設建設、所有、事業運営、資金調達など何らかの役割を分担して行うことを基本としている。</p> <p>今現在、この区域には、①役場庁舎、②官民複合施設（オガールプラザ＝紫波町図書館・紫波マルシェ、小児科医院、歯科医院、眼科医院、衣料品店等）③民間複合施設（オガールベース＝宿泊施設、体育館、飲食店等）、④オガールタウン（町分譲住宅地57戸）、⑤県フットボールセンター、⑥オガール保育園、⑦エネルギーステーション、⑧オガール広場が配置され、それぞれが公民連携の手法により、域内の交流人口増、雇用者数維持、地価公示価格の上昇、定住人口増に成果をあげ、（2013）土地活用モデル大賞（2017）国土交通大臣賞、（2019）総務大臣表彰、ふるさとづくり大賞個人表（総務大臣表彰）岡崎正信氏、（2020）ふるさとづくり大賞優秀賞（総務大臣表彰）紫波町、その他多数の評価を得ている。</p> <p>現地を視察したが、各施設は良く整備され、管理も行き届いており、平日にもかかわらず、域内には活気があふれていた。</p> <p>本町においても、紫波町のオガールプロジェクトの成功事例を参考として、民間活力の積極的な誘導による地域課題の解決策（PPP方式）を、本格的に研究する価値はあるのではないかと感じた。</p>
--	--

令和8年5月8日

川俣町議会議長 様

委員 藤野 圭史

令和8年 川俣町議会予算決算常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	予算決算常任委員会所管事務調査
2	日時 調査地	令和8年4月21日（火）～22日（水） 調査先名 遊佐町
		令和8年4月23日（木） 調査先名 紫波町
3	参加者	15名（議員 11名・事務局 2名・所管課長等 2名）
4	研修内容及び まとめ (意見・感想)	<p>①遊佐町における少年議会について</p> <p>【内容】場所：山形県遊佐町役場 会議室</p> <p>平成15年度より、「少年議会」を継続的に開催している。本事業では、中学生および高校生を対象に、直接選挙により「少年町長」や「少年議長」等の役職を選出している。選出された生徒は、実際の行政活動を模した取り組みに参加し、政策提案や議会運営などを体験することで、政治や行政への理解を深めている。これにより、主体的に社会へ参画する意識を醸成し、実践的な主権者教育の推進を図っている。</p> <p>【まとめ】</p> <p>20年以上の歴史を持つ遊佐町の「少年議会」事業について研修を行った。主要テーマは、少年議会の設立経緯、運営体制、活動実績、そして成果と課題である。特に、若者の政治参加意識の向上（18歳投票率など）、事業継続を支える仕組み（学校・保護者・留学生との連携）、そして人口減少下での参加者確保という継続的な課題について、具体的なデータと共に詳細な説明と質疑応答が行われた。少年議会が単なる模擬体験ではなく、郷土愛を育む「人材育成システム」であると感じた。</p>

<p>4 研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>	<p>②遊佐町における遊佐高校地域みらい留学について</p> <p>【内容】場所：山形県遊佐町役場 会議室</p> <p>町内に所在する県立遊佐高校には、現在17名の県外出身生徒が通学している。これらの生徒の受け入れ環境を整備するため、町内の空き家を改築し、学生寮（4棟）として活用している。また、寮の運営にあたっては寮母等を地元住民が担うなど、地域と連携した体制を構築している。こうした取り組みにより、学校の魅力向上とともに、地域に根差した教育環境の充実を図っている。</p> <p>【まとめ】</p> <p>「遊佐高校魅力化プロジェクト」および「地域みらい留学」について説明を受けた。廃校の危機を背景に高校魅力化を地方創生の柱として位置づけた経緯をはじめ、県外生募集や入寮選考、寮生活の支援体制、地域と連携した教育プログラムなど具体的な運営手法について説明を受けた。また、関係人口の創出といった成果が確認される一方で、地元進学率の低さや財源確保などの課題もあることを認識した。さらに、所管部署が主導する組織体制や通学支援の公平性を巡る議論にも触れられた。高校魅力化の取り組みは単なる教育施策にとどまらず、地域経済や人口動態、コミュニティ活性化に寄与する総合的なまちづくり施策であることを学んだ。</p>
<p>4 研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>	<p>③紫波町議会予算決算審査における議員間討議の導入について</p> <p>【内容】場所：岩手県紫波町役場 会議室</p> <p>平成26年3月に制定された「紫波町議会基本条例」第7条では、議会は言論の府であることを深く認識し、議員相互の自由な討議を中心として活動すべき旨が規定されている。議員間討議の重要性を明確に位置づけ、合意形成に向けた活発な議論の推進を求めるものである。</p> <p>【まとめ】</p> <p>議員間討議を導入し、議決責任及び説明責任の確保、並びに論点共有の深化を目的として運用していることを確認した。議員間討議は分科会形式により実施され、当局を除く議員のみで議論を行い、その結果を全体会で共有する仕組みとなっている。また、自由討議については相互理解の促進を目的として時間制限を設けた上で実施されている。予算審議においては、分科会で論点整理を行った後、当局との一問一答形式による質疑を行う流れが確立されており、議案の早期提示や事前の論点共有により審議の充実が図られている。これらの取り組みにより、議員間の認識共有が進み論点が明確化されることで質疑内容の充実につながっていると感じた。</p>

<p>4</p> <p>研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>		<p>④中学生議会について</p> <p>【内容】 岩手県紫波町役場 会議室</p> <p>町内3中学校から選出された代表18名が質問席に登壇し、町の将来や課題について提言を行う機会を設けている。これに対し、役場当局側が答弁を行い、行政側との意見交換を実施している。また、町議会議員は事前学習の支援や当日の議会運営に参画するなど、全体を通じて円滑な運営と学習機会の充実に寄与している。</p> <p>【まとめ】</p> <p>中学生議会については、子どもたちにまちづくりへの参加機会を提供し、その意見を議会活動に活かすことを目的として開催されていることを確認した。事前学習では議員が各中学校を訪問し、議会の仕組みの説明や意見交換の支援を行い、当日は受付や誘導等も含め議員が運営を担っていた。スクリーン生中継も実施されるなど、開かれた議会運営が図られている。加えて、これまでの中学生議会で提案された学校トイレの整備など具体的な政策に反映された事例があり、若い世代との意見交換として大事な事業だと感じた。</p>
<p>4</p> <p>研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>		<p>⑤オガールプロジェクトについて</p> <p>【内容】 紫波町オガール 会議室</p> <p>飲食店、販売店、クリニック、体育館に加え、ホテル、図書館、町役場、サッカー場、スポーツジム、美容室、レンタルスペースなど多様な機能を集積した複合施設である。本事業は、官民連携（PPP）を活用した先進的な都市整備として、約10haの町有地を対象に補助金に依存しない民間主導のスキームにより開発された。年間約100万人が訪れるなど高い集客実績を有し、全国的にも成功事例として評価されている。</p> <p>【まとめ】</p> <p>駅前未利用地問題と財政制約を背景に、公民連携（PPP）による再生に転換した詳細内容の説明を聞いた。官民の役割とリスクを契約で明確化し、「敷地に価値なし、エリアに価値あり」を軸に、オガールプロジェクトを段階整備した。“稼ぐインフラ”設計、住宅・エネルギー施策を一体運用し、交流人口増加や地価上昇、雇用創出を実現し持続的成長基盤を構築した事が分かった。旧市街地対策も行っており、「大きい開発の後に小さいリノベ」を実施して、商店街リノベーションや廃校跡地においても今までのノウハウを生かしたプロジェクトであると感じた。</p>

令和8年5月11日

川俣町議会議長 様

委員 藤原 正

令和8年 川俣町議会予算決算常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	予算決算常任委員会所管事務調査
2	日時 調査地	令和8年4月21日（火）～22日（水） 調査先名 遊佐町
		令和8年4月23日（木） 調査先名 紫波町
3	参加者	15名（議員 11名・事務局 2名・所管課長等 2名）
4	研修内容及び まとめ (意見・感想)	<p>①少年議会について</p> <p>【内容】 遊佐町における少年町長・少年議会公選事業について主なものとして事業誕生の経緯、特徴、これまでの成果と今後の展望など。また町や地域との関わりなど町教育委員会社会教育係より説明をうけた。</p> <p>【まとめ】 この事業が始まったのは2003年からで当時の社会情勢が背景にある。遊佐町内に在住する中高生を対象として民主主義のシステムを学ぶことと、未来を担う若者視点からの町政参加や町づくりに活かす狙いとしてのようである。議会の運営も中高生が自ら携わり、中高と継続して活動している生徒もいるとのこと。また彼らの議会での提言が町の政策として実現するなど実績に繋がっている例もあるようである。当初は参加する生徒も少なく存続も危ぶまれた時期もあったが継続を望む声や遊佐高校からの県外生徒の受け入れなどで近年では20人前後で推移している。また遊佐高校への進学を希望する中学生が増加するなど相乗効果もみられる。さらに議会活動に関する保護者の理解はもとより地域住民の協力なども大きいと感じる。今回の遊佐町の取り組みについて当初は中高生による模擬議会のようなものととらえていたが民主主義を学ぶだけでなく町づくり、人づくりなど参考になった。</p>

<p>4 研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>		<p>②地域みらい留学について</p> <p>【内容】 地域みらい留学導入の背景、実現したいビジョン。町としての学生の募集、生活支援への取り組みはどうしているかなど説明をうけた。</p> <p>【まとめ】 遊佐高校は県立高校再編整備基本計画により統廃合の危機にあり、その対策として高校魅力化プロジェクトに着手し生徒募集を全国に拡げることとした。そこで地域みらい留学を活用し高校の存続と活性化は基より特色ある学びや若者の移住、流入などを通じた地域の担い手づくりなどで少年議会への参加などもその事例といえるだろう。生徒の生活支援についても空き家を改修し寮と活用することや寮母として医療や教育に携わる方々を食事面だけでなくケアサポートとしての役割を担っているようだ。これらの事案は今後の川俣高校への取り組みにも参考になると考える。</p>
<p>4 研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>		<p>③予算・決算審査における議員間討論の導入について</p> <p>【内容】 予算・決算審査においての議員間討論の目的、必要性について紫波町議会運営委員長より説明をいただいた。</p> <p>【まとめ】 議員間討議の目的は議案の賛否を決める前に、賛成・反対を対立させるのではなく、議員間で考え方を確認することや課題、論点を共有すること。討論は最終的に採決につながるためのプロセスであるとのこと。それにより論点についての話し合いが十分になされ議決に係る説明責任が果たせるようになるなど成果がみられた。また2つの分科会が事前に論点等を協議し、その後委員会において各分科会の結果を報告し合い全体協議するという仕組みは課題・論点の共有という部分で参考になると考える。</p>

<p>4</p> <p>研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>	<p>④少年議会について</p> <p>【内容】 中学生議会を導入した背景と目的、募集方法、成果などについて紫波町議会運営委員長から説明をいただいた。</p> <p>【まとめ】 地方自治制度や議会制度を理解し学びの場として、議員との交流を通じて町政への理解や関心を高め、町の現状や将来について考える機会を設けることを目的としている。実際に議員が中学の公民の授業に赴き事前学習を行なっているようである。募集については町内3つ中学校に協力を依頼し18名を選出している。質問にも町当局が答弁するなど実際の議会と同様にしていること。参加した生徒からは議会や町政に関心を持った、地域活動に貢献したいなどの感想がだされ一定の成果はみられた。将来的に町政や社会活動に参加してくれることを期待したい。</p>
<p>4</p> <p>研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>	<p>⑤紫波町PFI構想について</p> <p>【内容】 公民連携による駅前公有地活用(オガールプロジェクト)について紫波町企画総務部地域づくり課副課長より説明をいただいたのち現地を案内いただいた。</p> <p>【まとめ】 オガール構想の基本理念である循環、協働のまちづくりは人口減少、環境保護、災害対応、教育の充実など将来を見据えたまちづくりの先行事例であり成功事例といえる。要因としては盛岡市を中心とした北上平野に位置しており平坦地であること。JRの駅があり交通インフラや医療が整備されベッドタウンとしての機能がはたせること。教育、スポーツを通じての交流人口の拡大などがあげられる。川俣町においてはコンパクト化を推進するとすれば地形的要因、交通インフラなどの課題がある。既存施設等の活用や地域性の特色を考慮しつつ公民連携で整備を図っていくうえで今後の参考になると考える。</p>

川俣町議会議長 様

委員 高橋 文雄

令和8年 川俣町議会予算決算常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	予算決算常任委員会所管事務調査
2	日時 調査地	令和8年4月21日（火）～22日（水） 調査先名 遊佐町
		令和8年4月23日（木） 調査先名 紫波町
3	参加者	15名（議員 11名・事務局 2名・所管課長等 2名）
4	研修内容 及び まとめ (意見・ 感想)	<p>①遊佐町における少年議会について</p> <p>【内容】</p> <p>2003年の平成の大合併時の社会情勢による人口減少、少子高齢化の影響により若者が減少した、これからの「まちづくり」は若者との声が有り少年町長・少年議会が始まった。</p> <p>目的</p> <p>①若者たちが代表を選び、政策を実現していくことで民主主義を体験・学習し社会のシステムを学ぶ</p> <p>②中高生の視点から町政への提言や意見を町が採り上げる事で若者の町政参加を促</p> <p>③この事業に関わる関係者が、若者の意見に学び、若者たちが社会システムや民主主義を学ぶ相互教育の場とする</p> <p>特徴</p> <p>①少年議会には45万円の予算が設けられている</p> <p>②対象者は遊佐町在住の中高校生及び遊佐町に通学する高齢化とする。対象者は少年町長・議員の選挙権と非選挙権をもつ</p> <p>③選挙による構成員は町長1名、議員10名とし、当選しなかった立候補者から副町長、監査、事務局長、事務局次長が選任される</p> <p>主な活動実績例</p> <p>第1期 カーブミラーの設置、防犯灯の設置、用水路の転落防止柵の設置他</p> <p>第2期 町のイメージキャラクター「米～ちゃん」を考案、ストラップや着ぐるみも作成され町内外のイベント等で活躍他</p> <p>第3期 バス停へのベンチ、雨よけの設置</p> <p>第9～11期 特産品の開発(芋煮コロッケ・もちっと米～カー)し販売も行った</p> <p>第16期 教えあいながら勉強できる中高校生の居場所づくりとして「学び合いスペース」を図書館の一角の設置他</p> <p>その他、第1期から第23期(令和7年)までの各期において様々なイベント、ボランティア、町の各行事への参加、議会との意見交換会等、活発な活動を行っている。</p> <p>今後の展望</p> <p>少年議会を経験したメンバーは町当局や外部団体と協議する中で自信や責任感が生まれ中高校生の町政できる場が造られた。若者の意見を積極的に取り入れ、残りたい町・帰ってきたい町・住みたい町を目指して事業を進めていくとのこと。</p>

	<p>【まとめ】 中高生による少年議会の取り組みは色々な活動を通して、自信や責任感が生まれ町に対する感心が深まり、若者から見た町の現状への気づき、意見等の提案をし有意義な活動に感じられる。この活動によって町の良さを知り、改善点を共に直し、いろいろな条件も有る中で町に残る人が多少なりとも出てくる取り組みと思われる。当町でも「議会改革」の中で唱っているのだから、真剣に検討して行かなければならないと感じた。</p>
<p>4 研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>	<p>②遊佐町における遊佐高校地域みらい留学について</p> <p>【内容】 目的 ①遊佐高校の廃坑を防ぐために県外留学生受入れによる生徒の確保 ②遊佐高校の魅力化＝まちの魅力化による町の活性化、人口減対策、町の存続 ③特色ある学びや活動―先生や学校との近距離の少人数教育―都会にない自然や文化に触れる―新しい環境で変化や成長を実感―親元から離れ自立した生活―世代を超えた仲間づくり― ④高校の存続・活性化―地域を支える人材育成―若者の流入・教育移住―関係人口の創出・拡大―地域の担い手づくり―町の活性化 ⑤実施に向けた施策。寮での暮らし(空き家を改修)、各種助成(帰省時旅費の補助・受け入れ費用の低額・授業料減免・生活支援・コーティネーター・ハウスマスター・寮母)他</p> <p>【まとめ】 担当部署が当町と違い教育委員会のみでなく企画課(町では政策推進課)も関わり、年間5千万の予算を計上し、町民も関わり町全体として推進していると感じた。 意見として、川俣高校で行っている「地域留学」だが、町としての寮の整備等のハード面の援助だけでなく、今回の遊佐町の様な町の考えの方向性、また高校、生徒(留学生も含めて)、町民との交流、懇談当を実施し町民に解りやすい説明を行い理解を得て町全体として進めて行かなければ、成功し成果を上げられないと思う</p>

4 研修内容及び
まとめ
(意見・感想)

③紫波町議会における予算決算審査における議員間討議の導入について

【内容】

背景

議会のあり方に関する検討委員会を設置し予算・決算審議において分科会ごとに論点を協議する場を設けた

目的

- ①議会における議決責任・説明責任を図るため、議員間討議の充実を図る
- ②予算・決算等の早期提示（1週間前）にとり、議会のチェック機能を深める
- ③議案に関わる課題・論点に共有化を図る

必要性

- ①議会における議決責任を果たすためには、議決に関わる説明を行う必要がある
- ②説明員に対する質疑を中心とした審議・審査だけでは議決に関わる説明責任を十分果たすことはできない
- ③議員だけで議論し一定の結論を出すとともに、その結論に至った理由についても議論の経過を含めて説明することができるようになる必要がある
- ④議決の主体は議会(所管委員会)であることから、議決の説明も「議会としては・・・」という形で議会を主語とした説明が必要である

結果・成果

本会議における議決の前に、執行者は同席せずに分科会ごとに論点を議員同士で協議し(採決につなげる)、その後全体で協議する事で議決に係る説明責任が果たせるようになった

【まとめ】

当議会に於いても、提案事項について現在は委員会・全員協議会・議決となっているが、委員会での執行部の議案説明後に各委員会で委員のみでの討論会を議会日程を組み入れるべき

<p>4 研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>	<p>④紫波町における中学生議会について</p> <p>【内容】</p> <p>背景・目的 町の将来を担う中学生が地方自治の仕組みや議会の役割を肌で感じ、理解を深める</p> <p>以下のような意見・提案があり中学生なりの気づきが見られた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 雨水の有効利用 2. 自転車道の整備 3. ごみの削減と分別 4. バス停の見直し等。 <p>成果：体験を通して中学生なりの考えを引き出す結果になった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 町の未来を考えるきっかけになった。 2. 自分の意見を持つ重要性に気づいた。 3. 町づくりに関心を持った。 4. 自分たちの世代も動かなければならないと思った。 5. 地域活動に貢献していきたい。 6. 多くの提案を実現につなげてほしい他 <p>【まとめ】</p> <p>当議会に於いても、遊佐町の少年議会同様に設置を進めて行かなければ。</p>
-------------------------------------	--

<p>4 研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>	<p>⑤紫波町におけるオガールプロジェクトについて</p> <p>【内容】</p> <p>目的</p> <p>①公民連携による公有地開発・活用プロジェクト ②循環型まちづくり ③協働のまちづくり。町民が主役の自治の仕組みづくり、町民の公益活動の環境づくり、地域課題に取り組む地域コミュニティづくり ③子育て世代の転入誘導・若い世代の流出抑止対策・商店街地区の人口減少対策・少子高齢化対策・雇用の場の確保 ④官と民と一緒に街を創る「複合開発」 ⑤暮らしのコンテンツを充実させる ⑥稼ぐことで、公共サービスを維持する ⑦官と民で地域経営課題を解決する</p> <p>実行手法</p> <p>①町民の意向調査(2年間で100回)・民間企業意向調査 ②東洋大学大学院経済学研究科公民連携 ③PFI・BTO・DBO・PPP方式の活用 ④注意点・陥りやすい失敗。「補助金に依存しない」「コンサル任せで無く自分たちの頭で考える」「ハコを造って終わりで無くハコと一緒にコトをおこす」</p> <p>結果・成果</p> <p>①人口の増加・維持。昭和30年 30,199人、令和2年 32,147人。就業人口 昭和30年 15,818人、令和2年 17,028人 ②昼夜間人口比率。2000年 86.0%、2015年 81.6% ③財政難(実質公債費比率)の改善。平成19年 23.3%、令和3年 12.9% ④地価公示価格が10年間で21.7%上昇 ⑤交流人口104万人</p> <p>【まとめ】</p> <p>町の事業を市内だけで考えるのではなく、住民の意向・意見、専門家の助言を取り入れて実施する事が大事。 ハコ物(施設等)を創る場合、補助金頼りだけでは無く将来の収支(負担だけが残る)を考慮して行なわなければならない。(稼いで資金回収できる) 紫波町の例に、ハコ物の建設に民間の資金導入を取り入れれば約2割の削減可能との実績が有る</p>
-------------------------------------	--

令和8年5月6日

川俣町議会議長 様

委員 山家 恵子

令和8年 川俣町議会予算決算常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	予算決算常任委員会所管事務調査
2	日時 調査地	令和8年4月21日（火）～22日（水） 調査先名 遊佐町
		令和8年4月23日（木） 調査先名 紫波町
3	参加者	15名（議員 11名・事務局 2名・所管課長等 2名）
4	研修内容及び まとめ (意見・感想)	<p>①遊佐町における少年議会について</p> <p>【内容】 これからの遊佐町の町作りをしていくのは若者である。若者自身が地域社会の一員との自覚を促し活躍の場を明らかにするため2003年スタート。今期24期となる。事業のねらいに中高校の視点からの提言や意見を町が取り上げる事で若者の町政参加を促し併せて全ての関係者が若者の意見に学ぶ。そして町のシステムや民主主義を相互に学ぶ場にもなる。</p> <p>【まとめ】 イメージキャラクターや事業による遊佐町に関心を寄せる中高校が増えている事や現地調査、署名運動による要望など成果があり若者の人材育成に繋がる参考になりました。</p>

<p>4 研修内容及び 4 まとめ (意見・感想)</p>		<p>②遊佐町における遊佐高校地域みらい留学について</p> <p>【内容】 遊佐高も川俣高と同じく廃校の危機がありR2年から県外生募集が始まる。遊佐のみらい留学のビジョン特色ある学びとしてジオパークの地カツ、地域に出ていく面白い学び、2年生から週1各企業に出向き10月に1人ひとりが県外生の家族を交えて発表するなど高校の存続と共に若者の流入と関係人口の創出・拡大もできる取り組みを考えている。高校の魅力化 意識ある若者の還流によって持続可能な地域を作る。</p> <p>【まとめ】 高校の魅力化において教育コーディネータ、キャリア教育、他地域との交流など川俣町も取り組んでいるが遊佐町では小年議会の取り組みとのリンクもあり川俣町に取り入れるヒントがある視察であった。</p>
<p>4 研修内容及び 4 まとめ (意見・感想)</p>		<p>③紫波町議会予算決算審査における議員間討議の導入について</p> <p>【内容】 予算・決算審議前に委員会ごとの協議を議会のチェック機能を深める為に行っている。議員同士での考え方を確認したり町で必要なのか話せる時間があるのは再認識できて良いと思う。</p> <p>【まとめ】 議員は町民の代表であり慎重に審議する立場です。議員間での話し合いもあって良いと参考になり川俣でも取り入れられたと思う。より価値的に町民の為の審議が可能になると考える</p>

令和8年4月28日

川俣町議会議長 様

委員 石河 ルイ

令和8年 川俣町議会予算決算常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	予算決算常任委員会所管事務調査
2	日時	令和8年4月21日（火）～22日（水） 調査先名 遊佐町
	調査地	令和8年4月23日（木） 調査先名 紫波町
3	参加者	15名（議員 11名・事務局 2名・所管課長等 2名）
4	研修内容及び まとめ (意見・感想)	<p>①遊佐町少年議会について</p> <p>【内容】</p> <p>平成15年から当時の熱心な街の未来への考え、若者の成長を願い実践してきた。平成の大合併により街の人口減少や地域の衰退を心配し、すぐに行動を起こしたことが素晴らしいと思いました。また選挙により町長を立て、一般的に行われているような投票選挙活動を体験させると言う大胆なものです。実践的主権者教育を実現しております。他市町の高校に通う生徒も対象とし、遊佐高校ばかりでなく、6校6人の担当教員を配置してもらい、委員会プロジェクトチームを構成して行っている。もちろんこれは教育委員会が主導でなければできないことになり、社会教育担当が行っている。今までに街のシンボルしおりの作成や要望を街に届けたり、現地調査なども行うなど大人顔負けの活動をしている。年間計画に乗せて行っており、予算はトータルで930,000円位とわずかである。夜間開催ということでの親の理解も得ている。</p> <p>【まとめ】</p> <p>若者に地域社会の一員になってもらいたい自分たちの力で、自分たちが求める街の姿を発信してもらうと言う目標が心を動かしたと思います。議会との懇談会も年一回開催し、議員の研修も深まっていると思う新しい道の駅のロゴマークも公募しており、若い力が街に活気をもたらしている。困難な時期もあったが、継続してきてよかったと言う話に胸を撫で下ろした。</p>

<p>4 研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>		<p>②遊佐地域未来留学について</p> <p>【内容】 遊佐町では、企画課と教育委員会との連携により取り組まれている。やはり財源確保が重要なポイントになっているが、7年になり空き家改修した寮の管理や寮生の支援には多数の町民の方々の協力が大切になっていると思います。入寮試験は町が行い合格した生徒が遊佐高校の受験に臨める。寮の確保も今後の課題ではないかと思います。2年生になるとデュアル実践と言って週一回事業所へ行き、職場体験をする。町民との関係や雇用、就職へのつながり等が生まれている。</p> <p>【まとめ】 私は道の駅ふらっとで実際その時の生徒と会話をする機会があり、素直で若者らしい姿に微笑みを感じ成功してほしいと思いました。遊佐/町は米を始め砂丘メロンやパブリカ、庄内、牡蠣など農産物も豊富ハンガリーとの交流もある魅力ある街です。全国から注目を集めるでしょう。</p>
<p>4 研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>		<p>③議員間討論の導入に関する調査</p> <p>【内容】 常任委員会は、①いきいきまちづくりと②すこやかまちづくりと言う愛称のもと構成されており、親しみやすい表現をしている。分科会との討議と全体の討議を通して当局が参加せず議員だけで行っている。</p> <p>【まとめ】 全体としての合意形成と論点整理が目的となっていて、議会としての統一見解や責任を示していると思った。しかしそれぞれの議員としての見解も持ち合わせている事はもちろんあることですし、十分な討議を考えてのことだと理解する。</p>

<p>4</p> <p>研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>		<p>④中学生議会に関する調査について</p> <p>【内容】 紫波町議会は今まで町民議会や女性議会、子供議会など10回行っている。最近では中学生議회를隔年で行っている。その目的は次代を担う子供たちがまちづくりに参画する機会を提供し、街の質問を通して議会を身近なものと感じてもらうことである。</p> <p>【まとめ】 教育委員会に各校への調整をお願いし、議会が事前学習に十分な準備をすることが大切になってくると思う。令和6年は11月23日祝日に行われており、参加者や役割の分担などしっかりと行ったものと思われます。経験を積み上げていくことが大切と考える。子供たちの感想も、議員の街の思いや街の未来について、またまちづくりへの関心が高まったなど有意義であったことが伺えます。子育て支援は主に親への経済的支援であるが、町を上げて町の未来への人材育成や社会の1人として成長を助ける機会であるのではないかと思います。少年議会で提案されたトイレの問題や歩道の安全については、身近で今すぐできる実行しなければならない要望でもあると思います。</p>
<p>4</p> <p>研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>		<p>⑤オガール複合施設について</p> <p>【内容】 盛岡のベッドタウンでもあり、地域性を生かしたまちづくりとして注目を浴びている中心部の使われていない町有地の利用の取り組みが始まりです。やはりここでも有能な人材、町長のアイディアと一緒にプロジェクトを進行してきた方々、東洋大との連携など、たくさんの人々の力が積み上がっております。たくさんの事業の中から1部感想を述べたいと思います。平成12年から循環型まちづくりとしてスタートし、町の産業である林業町産材を活用した施設作りが目を引きました。役場庁舎若者住宅保育所と小児科の連携、宿泊施設や図書館や体育館等何でも充足しております。若者を呼び込む発想があります。住宅においてはバイオマス発電が地下を通っており、日中は役場夜間は住宅に主に供給されております。</p> <p>【まとめ】 マルシェにおいては、360名の会員が出品しており、赤字になったことがないなど、人口交流と産業振興を含んだまちづくりが進んでいる状況が生まれていると感じました。町の財政難などの課題解決に関係団体、町民参加ということで意見交換会を100回も行った努力に敬服するところです。なんとといってもJRの駅を申請して作ったと言うプロジェクトに始まり継続的に発展の可能性を見出してきた長年の積み重ねが実を結んだと思いました。</p>

令和 8 年 5 月 8 日

川俣町議会議長 様

川俣町議會議員 高橋清美

令和 8 年 川俣町議会 予算・決算 常任委員会所管事務調査報告書

1	研修名	<u>予算・決算</u> 常任委員会所管事務調査
2	日時 調査地	令和 8 年 4 月 2 日 (火) 調査先名 山形県遊佐町 令和 8 年 4 月 29 日 (木) 調査先名 岩手県柴波町 オガール
3	参加者	15 名 (議員 11 名・事務局 4 名)
4	研修内容 及び まとめ (意見・ 感想)	1. 山形県飽海郡遊佐町議会 【内容】 (地域みらい留学及び少年議会) 山形県立遊佐高等学校 (脱力化推進計画) 質問事項 7 点 少年議会に関する質問事項 2 点。 【まとめ】 遊佐高校にも川俣高校と同様に、高校の存続が危ぶまれている。平成 26 年に県立高校再編整備基本計画が制定され、遊佐高校脱力化プロジェクトが決定 (廃校を防ぐため、県外留学費による受け入れが開始)。町として、企画課が担当し、町としての努力が伺われる。少年議会についても、2003 年に、まちづくりをいかにするか、若者及び子どもたちが現役に戻ってほしい。町の努力と議会も予算化しており、両方一体となり進められている。議会としての役割を考えたいかなければならない。 (議会事務局特に議員の対応に感謝)

2. 岩手県紫波郡紫波町議会

【内容】

(予算決算審査における諸質問討論の導入)

導入に際する質問の点

(中学生議者について)

質問事項の点

(オカールプロジェクトについて)

これまでの経過

【まとめ】

一議会のあり方検討委員会の設置が、平成23年8月に早くから検討し、74回以上の委員会を開催して議員間の討論の討論の必要性を感じた。

議員同士の考え方を確認することで、議論が深まり当該会でも必要があるのではないかと思つた。

中学生議会については、平成2年から、町民議会、中学生議会、女性議会、小学生議会、高校生議金を開催しており、議金を身近なものと感じてもらふことが大事であると感じ、当該会では、小・中・高・女性、各種団体の代表による、議会の導入を検討すべきである。

オカールについては、公民連携による公有地活用オカールプロジェクトの発足し、公民連携のまちづくりが、実現された。これは、広大な公有地があり、民間主導型により運営されている。

令和8年5月13日

川俣町議会議長 様

委員 新関 善三

令和8年 川俣町議会予算決算常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	予算決算常任委員会所管事務調査
2	日時	令和8年4月21日（火）～22日（水） 調査先名 遊佐町
	調査地	令和8年4月23日（木） 調査先名 紫波町
3	参加者	15名（議員11名・事務局2名・所管課長等2名）
4	研修内容及び まとめ (意見・感想)	<p>①遊佐町における少年議会について</p> <p>【内容】</p> <p>日本海高速道路を北進、雄大な鳥海山のふもとに庄内平野のなか砂丘地特有の砂質壤土の広大な水田面積が植え付け準備に取り組んでいる時期でもあり、近年畑地化された所はスイカ、メロンの小トンネルが目立つ様になっており、当地と一種異なる光景思え出に残る中研修目的地に到着する。</p> <p>平成15年に事業開始され、町内在住の中、高生が主体となり、若者の目線から町づくりにつながる活動をおこなって23期を迎え活動している訳で、年間計画と予算も確立してる。設立されたきっかけは、平成の大合併が行われた社会情勢にあり、人口減少していった中で、これからの遊佐町の町づくりをしていくのは若者であるとの訴えかけから遊佐町、少年町長、少年議員公選事業が始まった。</p> <p>【まとめ】</p> <p>☆特に活動の日程内容に関心 議会議員との意見交換会町内行事への参加についても参考になった。</p> <p>☆少年議会、町長 議員経験者方から議員の誕生は無い</p> <p>☆10代の国政、県政、選挙の投票率は 町長選挙は69・8%で他の投票率-の説明は無かった。</p>

<p>4 研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>		<p>②遊佐町における遊佐高校地域未来留学について</p> <p>【内容】 都道府県の枠をこえて、地域の高校に入学し充実した3年間を過ごすこと、現在、全国募集を行う公立高等学校は約170校で今後更に増えていくなかでの取り組みは。寮の設置、一般住宅の空き家を改良し寮母は当番制で必ず寮に宿泊する。魅力化を支える方々コーディネーター4名、ハウスマスター3名、寮母(生活指導員)15名が活動されています。寮費は去年は3万円今年度より2万5千円にした。</p> <p>【まとめ】</p>
<p>4 研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>		<p>③岩手県紫波町における議員間討議について</p> <p>【内容】 議員間討議の目的 議員間討議の必要性について ☆経過内容についてと現況と実態について 日程の長期化は当然必要である事、内容の理解と改善点を具現化する能力と議員間「所管委員会」での討議が必要であると資料に基づいて説明をうける ☆議員間討議は所管委員会の中で充分検討することが必要であると痛感した</p> <p>【まとめ】</p>

<p>4</p> <p>研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>	<p>⑤岩手県紫波町におけるオガールプロジェクトについて</p> <p>【内容】</p> <p>★ 柴波町の最課題は「財政難」平成10ねんから10年間塩づけ「含み損を抱いたまま長期放置、資金効率を著しく低下させ損失拡大をまねく状態」だった 実質公債費比率平成19年 23.3%-----令和3年 12.9%*、 こうした状況のなか、町有地を 民間主導型の公民連携で「公用、公共施設と「民間経済開発」両立を計る 大型プロジェクト、オガール柴波株式会社を設立した。 ☆当初 町が 78株 100% 390千円 ★現在 町が 78株 38% 他122株「団体 企業 個人」 で運営されており、官と民の役割り分担し地域経営課題に即した事業展開は参考になり！！</p> <p>☆☆特に陥り易い失敗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金が先頭を走ってはいけない 補助金に依存しない ・コンサル任せにはいけない 自分達の頭で考える ・ハコを作って終わりでない <p>【まとめ】</p> <p>ハコと一緒にコトを起こす事が大切で有るである事を認識し報告とします！！</p>
--	---

川俣町議会議長 様

委員 菅野 清一

令和8年 川俣町議会予算決算常任委員会所管事務調査報告

1	研修名	予算決算常任委員会所管事務調査
2	日時	令和8年4月21日（火）～22日（水） 調査先名 遊佐町
	調査地	令和8年4月23日（木） 調査先名 紫波町
3	参加者	15名（議員 11名・事務局 2名・所管課長等 2名）
4	研修内容及び まとめ (意見・感想)	<p>①遊佐町における少年議会について</p> <p>【内容】</p> <p>人口およそ1万2千人余りの遊佐町では、若者の力によるまちづくりをめざし、遊佐町在住・在学の中学生と高校生の中から「少年町長」と「少年議員」を直接選挙で選び、少年議会を開催している。昨今、「議会改革」や「開かれた議会」を目指して、子ども議会や若者議会を行う自治体は多くあるが、この遊佐町が決定的に違うところは、実際に選挙を行い、自分たちの政策を実現するための独自の予算を持ち事業を進めること。町の予算45万円をもとに、政策を立案し、実現させるための全員協議会が開催され、毎年度事業実績を生み出している。</p> <p>遊佐町少年議会の特徴は、①立候補制の保証②マニフェストがあること③中高生全員が投票できること④予算があること。</p> <p>この制度の発案者である当時の町長、小野寺喜一郎さん。ではなぜ、小野寺町長は遊佐町少年議会事業を立ち上げたのか。最も大きかったのは、時代を牽引していく役割を担う、若者の減少にあったという。町を離れてしまう若者が多くなっていた現状や、地域に残っても、地域の活動などに参加しないといった状況があった。地域の中心となる若者の活躍の場を創るための環境づくり、若者の力、意見を取り入れたまちづくりを推進することが重要と答えを導き、これらを目的として2003年に遊佐町少年議会事業がスタートした。</p> <p>また、遊佐町少年議会事業における担当町職員の役割は、事業が円滑に進むように取り組んでいくことを見守るだけで、一番大切なのは、中高生の主体性を何よりも重んじることにあるという。事務作業は職員が行うため、活動の進め方は職員が取り決めることがあるが、会議の進め方、立案する政策の内容、政策の実現の仕方などは基本的にすべて少年議会内で行う。この説明には驚かされた。</p> <p>小野寺町長は、当時町の青年団長から山形県、そして全国組織である日本青年団協議会（日青協）の会長を務めるなど、いち早く若者が急速に減少し地域の担い手が減ることや、若者が地域の一員としてどう関わっていくべきかと考えていた。私自身も当時、県連合青年会の役員の時何度かお目にかかったことがある。</p> <p>小野寺町長はかつて青年団活動の一環で西ドイツ（当時）を訪れた経験もあり、「ヨーロッパと日本の違いを目の当たりにした。1975年ごろのドイツでは地方分権が進んで、ヨーロッパの若者は政治に不満を抱いたら行動して変えるし、日本とは全く違う。日本の若者にも一人の人間として行動する力はあるはず」と述べる記事を読んだことがある。</p> <p>そう言った国際意識を基礎に「少年議会」という若者の力を育てる仕組みを遊佐町スタイルで確立した小野寺町長の功績は非常に大きい。</p>

		<p>【まとめ】 この全国に類を見ない遊佐町少年議会が20年以上続いている背景には、当時の小野寺町長の発案に先見の明があったとは言え、これを支えてきた行政当局の確固たる信念と教育行政当局者たちの高い教育理想とアイデンティティが感じられる。これまでのような子どもから議員を選び行政当局者が答弁するといった一般的な「こども議会」とは一線を画している。 そして、これらの事業成果は将来の町づくりや議員のなり手不足にも大きな影響を与えるものと確信をしていることを感じた。 本町においても、遊佐町のような少年議会の取り組みは十分可能かと思う。議会としても強力に支援していくので、今後の当町の教育委員会の取り組みに大きな期待をするところである。</p>
<p>4 研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>		<p>②遊佐町における遊佐高校地域みらい留学について</p> <p>【内容】 山形県立遊佐高校は2019年より、地域教育において重要な意味を持つ遊佐高校の廃校を回避すべく、魅力化を進める全国公募事業へ参画。「遊ばざる者 学ぶべからず」のテーマの下、初年度の5名の県外生受け入れから始まり、2024年9月時点で6人の生徒が遊佐町に移住して寮生活を送りながら遊佐高校に通っている。この取り組みは、「ふるさとを次の時代へ」という当初からの想いと、地域に高校を残すという遊佐町の熱意から始まった取り組みであり、県外入学者は「おばあちゃんちにシェアハウス」という町内の空き家を改修したシェアハウスに共同生活している。 改修した5つの一軒家を寮（シェアハウス）として運営しており、実際にシェアハウスの1軒を見学させていただいたが、これといった改修もされておらず、生徒らが工夫をして不便なく生活しているという印象を受けた。若者の適応力とでも言えば良いのか…。</p> <p>地域みらい留学という制度は、日本各地に140校を超え、その中から、住んでいる都道府県の枠を超えて、自分の興味・関心のある高校を選択するのは大変で、それだけに他の学校や自治体の受け入れ態勢が問われており、高校のオリジナリティや特徴があるかが問われている。遊佐高校では普通科の他に総合学科を設け、米どころだけに種まき作業や田植え、稲刈り体験、遡上する鮭の加工などを通し、地域の産業を通して学ぶなど中身の濃い授業も行っている。 これはかつて訪れた広島県加計高校のように、高校生が商店会のチラシ作りやイベント開催など高校生が地元にとってなくてはならない存在になっていることと共通している印象を受けた。</p> <p>生徒らが寄り添いながら地域住民と暮らしを営むことで、「遊佐愛」が生まれ実際に卒業生の中には、遊佐高校を卒業してそのまま遊佐町に移住した方もおり、将来遊佐町に戻ってくることを宣言して卒業した子達も一定数いるとのこと。 人材育成事業に即効性を求めることは到底出来ない。ようやく芽が出はじめた遊佐高校の地域みらい留学であると感じた。</p> <p>【まとめ】 川俣高校においては20km圏内に高校が沢山あることなどから、普通科の進学校と競争するのではなく、音楽、国際交流や文化芸術などの専門校を目指すべきではないか。そのためには学校のオリジナリティというか独自の学科を設けるべきと思う。そのコンセプトがはっきりしないと生徒の注目は集められないのは明白。 時間をかけもっと専門性を持った学校に変えていかないと進化は望めないでしょう。その辺を勘案して臨まないと学生寮を作っても入る生徒がいらないという結果にならないようにしなければいけない。あと10年後には高校は3割減少し、私立大学は半分になると言われている。この現実を直視しながら、柔軟に現状に対応することが重要である。</p>

<p>4</p> <p>研修内容及び まとめ (意見・感想)</p>	<p>③紫波町における中学生議会について</p> <p>【内容】</p> <p>紫波町こども議会は、町内3校の中学生から18名の議員を選び中学生議員が町当局に対しそれぞれの思いを質問するというもの。そもそもこの取り組みは次代を担う子供たちが町づくりに参画する機会を提供し、自分たちの住む町の将来を考えるきっかけしてもらうことを目的に始まったと伺った。</p> <p>開催は特に定期的実施するものではなく、3年に一度くらいのペースで行っているもので、議員全員がそれぞれの学校に出向いて議会の仕組みや役割を事前学習するなど議員自らも積極的に関わっている。このため生徒も議員との関りの中で、社会との繋がりを学んでいる。生徒たちにとって、家族や学校の先生以外の大人たち（議員や町長）との貴重な体験であり、議員としても新鮮な感覚を持つと同時に、生徒たちにとっても大きな成長の糧になっていると感じた。このことは生徒たちの感想文からも読みとれるとのこと。それらの声は「議員の大変さが分かった」「議員の町への思いが伝わった」「町の未来を考えるきっかけになった」「自分の意見を持つ重要さに気付いた」「町づくりに関心を持った」「自分たちの世代が動かなければならないと思った」「地域活動に貢献していきたい」「多くの提案を実現につなげてほしい」「たくさんお人のおかげで楽しく生活できることに感謝したい」と生徒たちの夢や希望を育むうえで大きな糧となっている。</p> <p>この研修を受け、当議会としても開催に向けた具体的な動きをしていきたいと思う。大変刺激になった研修であった。</p> <p>【まとめ】</p> <p>いま全国の地方議会で、こども議会や中学生議会などの模擬議会が開催されているがその多くは学校や教育委員会に任せきりの運営である。紫波町では議員全員が各学校に出向き議会に対するレクチャーを行うなど、議会の役目を果たしていることに重要な意味があると思う。</p> <p>ちなみに紫波町の議員報酬は2019年より300,000円で、東北では宮城県柴田町の313,000円に次いで2番目で、他議会から注目されている議会である。説明いただいた武田議長の発言からも「開かれた議会」への改革の意気込みが強く伝わってきた。</p>
	<p>④紫波町におけるオガールプロジェクトについて</p> <p>全国の自治体等から注目されている「オガール」を視察した。2007年からはじまった公民連携（Public Private Partnership/PPP）の取り組みによって、人口3万2千人の町に、年間100万人以上が訪れるようになった。公民連携の成功事例として知られるオガールプロジェクトにおいて、どのようにランドスケープがデザインされたのか？ プロジェクトにかかわったキーパーソンたちに大変興味を持ち研修に臨んだ。</p> <p>紫波中央駅前の施設、『オガール広場』は幅約30m、長さ約350mほどの広場の両側には、図書館や子育て応援センター、飲食店がある官民複合施設「オガールプラザ」や、宿泊施設などを備えた民間複合施設「オガールベース」、分譲住宅地「オガールタウン」、町役場、木質バイオマスボイラーを使用した「エネルギーステーション」、保育園など、暮らしに必要な機能が集約され、まさにコンパクトシティといったところである。「オガール」とは、「成長」を意味する紫波の方言「おがる」と、「駅」を意味するフランス語「Gare（ガール）」を組み合わせた造語だそう。</p>

このオガールプロジェクトによって276人の雇用が生まれ、周辺では宅地化が進み、近隣の定住人口も620人を超えた。地価も13年連続で上昇を続けている。さらに紫波町図書館は「Library of the Year 2016」を受賞。日本初のバレーボール専用体育館「オガールアリーナ」は、圧巻であり、国内外のプロチームから合宿先として選ばれている。

こうした好循環な状況が生まれるとは、プロジェクト開始前には、誰も予想していなかったとのこと。新聞報道でも「なぜ駅前に役場」「実現性へ疑問の声相次ぐ」など、様々なバッシングを受けた事業であった。

オガール施設内を役場担当者に案内され、特に驚いたのは図書館である。本の多さもさることながら各専門書が充実していた。音楽関係の本に至ってはジャズスタンダードの譜面バイブルがすべて揃っており、アドリブ奏法やジャズのコード理論教則本、それにジョン・コルトレーンやマイルス・ディビスのアドリブ理論誌までであった。唯々驚きの連続である。本なら何でも揃うといわれる新宿紀伊国屋書店か東京駅八重洲口の東京ブックセンターかと思わせる充実した図書館である。また2階の音楽スタジオも驚きであった。バンドの練習スタジオが2室あり中に設備してある楽器もある程度水準以上のものが完備されていた。人口3万くらいの町でどれだけの人が使うのかと聞いたら、この音楽スタジオが施設の中で一番稼働率が高いといわれ、この施設をプロデュースした方のセンスと能力の高さが伺える。

この他の施設も特筆すべきものは沢山あるが、要は行政が民間の知恵やアイデアをどれだけ受け入れる覚悟があるかどうかである。そもそもオガールプロジェクトは、駅前の10.7haの未利用公有地が、10年間も塩漬けにされていた広い土地で、「日本一高い雪捨て場」と揶揄（やゆ）されていた。この土地を活用することで、莫大な予算を投入し古い町役場の建て替えや、図書館の新設が行政課題としてあった。

しかし、大きく動き出したのは、当時の町長・藤原孝さんとオガールプロジェクトのキーマン・岡崎正信さんとの出会いにあった。岡崎さんは、岡崎建設株式会社の跡を継いでUターンしたばかりで全国で再開発事業の現場を見てきた経験から、行政が主導するまちづくりには限界があると、事業の計画段階から「公民連携」を町長に提案し、2006年に東洋大学大学院経済研究科の公民連携専攻に入学。ここでの1年半の学びによって、まちづくりの価値観が大きく変わったのである。これまでの公共事業は補助金に依存し、ランニングコストや稼働率を十分に想定せず、大型のハコモノを建設して失敗するといった、ずさんな計画が多かった。そこでオガールプロジェクトでは、公民連携の手法を取り、第3セクターである「オガール紫波株式会社」を設立し行政と民間の間に立つ「エージェント」のような役割を担い、岡崎さんが事業部長を務めたのである。岡崎さんは、紫波町らしいランドスケープデザインとは何か？ を考えるために、大学院で出会った恩師、都市・建築再生プロデューサーの清水義次さんをプロジェクトに誘った。清水さんはよく「人間中心のまちづくりをやれ」と言われたという。「道路をつくったり、商店街が復活したりすれば、まち全体が再生するわけではない。そこに住んでいる人たちが、“ここに住んでいてよかった”と思えるようなまちを作らなければならない。

つまり、人間中心のまちづくりというのは、紫波らしいライフスタイルを提案するということだそう。2009年に議決された基本計画では、「身の丈に合わない華やかな商業開発はしない」という思いを込めて、「都市と農村の暮らしを愉しみ、環境や景観に配慮したまちづくり」を開発理念とした。

帰宅後、ネット検索をしたところ、「オガール広場ができて、5～6年後に、地元タウン誌で“高校生が行きたいデートスポット”ランキングで1位になった。昔は、紫波には何も無いから盛岡に行くのが当たり前だったのに。いまでは、高校生がちょっと背伸びして、ここに来る。お金を必要とせず、何も用事がないのに行ってみようと思うというのは、まさに公共空間の極み。紫波らしいライフスタイル自体が集客装置になっている」との記事に至極納得した。

【まとめ】

オガールプロジェクトは、2年間で100回の意見交換会を行政と町民が、それぞれの立場から行き、自分たちがどのような場所で、どのように暮らしたいかを考え、互いに学びながら議論をし尽くしてきた。その結果生まれたのは、「当事者意識」と「何かをやろうとしている人を応援する精神」だということ。人が風景をつくり、その風景によってまた人がつくられていく。資源や資金だけでなく、人と人との関係性も含め、ものごとが「おがる」循環が地域内で育まれていることが「オガール」のすばらしさであると思う。

遊佐町・少年議会について

事業が始まったのは、2007年かぶである。

当時の町長の発案で「これからの遊佐町のまちづくりとしていくには若者の力が必須である」と思い実現にいった。

中学生と高校生が、自分たちだけで少年町長や少年議員を選挙で選び、7月から12月までの間、全員協議会を15回～20回開き政策立案と実施を検討し、その間3回ほどの少年議会を開き、その中で決めたことを町や団体との協議し実現へむけて、努力をしている。

実現したことも多数あるとのことである。

少年議会を経験したメンバーは、活動を通して大きく成長し、町に関心をもち、町のさまざまな行事に参加をし、地域のリーダーになりにつつあるとのことである。

少年のうちから、行政や議会のことを模擬体験することは、行政や政治への関心が高まり、メンバーのうちから、町長や議員をめざす人が出てくるのではいかと思わせる事業であった。

我々も、この事業を参考にし、出来ることがあるのではいかと思う。

遊佐高校 地域みらい留学について

遊佐高校の地域みらい留学は、^{平成26年の}県立高校再編整備計画の中で「入学定員の2分の1に満たない場合、原則として、2年後に募集を停止すると発表された。

遊佐高校は、平成31年の定員は40人で入学者は19人であった。

町の唯一の高校の廃校の危機に悩まされたことから、県外留学生の生徒確保により、高校の存続をはかり「地域みらい留学」を立上げた。

昨2年より募集を初め毎年ばかつきはあるが県外留学生の確保^ほできており今年も5名留学生が入学し、1年～3年生では8名が勉学に励んでいる、取り組み^{生徒にとって}として、小人数の高校の特色を生かし、先生や学校との距離が近い教育ができることや、留学することにより親から離れて生活することで自立心や成長することができるなどのメリットは多いと思われる。

町としての受け入れ体制は、^{まず}寮の整備であるが、空屋を改修したシェアハウスのような形で生活をするようにしている。(5～6人)

また、帰省時の旅費や低価格の受け入れ費用など、保護者負担の軽減をいえる生活支援については、ハウスマスターを配置して、体調不良、精神的不安など生活面のサポートをしっかりと行っている。

また、農業体験や企業訪問などで、地域に密着した教育にも力を入れており、議会議員との意見交換会なども実施し、遊佐町のすべてを理解をして、将来町に根をおろしてもらう取り組みも行っている。

岩手県紫波町

予算・決算における議員間討議について

議会における議決と説明責任を果たすため議会のチェック機能を深めること、議案に係わる課題、論点の共有化を図ることが重要である。

また、議決の主体は議員ではなく議会であることか、^{議会}「議」としてどう判断したか、ということが大事な決定であることか、議員間討議を導入したとのことであった。

町かぶの予算・決算に対して、議員どうしが十分な話し合いをしたのちに議会の判断として、町に意見や要求をしていくのが、議会の役割であると、強く思う研修でした。

中学生議会について

次代を担う子どもたちにまちづくりに参画する機会を提供し、自分たちの目線で紫波町のまちづくりについて町への質問を通して、町や議会を身近なものと感じてもらうことを目的として、中学生議会を開催した。

議員の役割は、事前学習と運営を行うとのことでした。

参加した生徒かぶは、議員の大変さがわかった、町の未来を考えるきっかけになった、町づくりに関心を持ったなど、多くの感想が寄せられたとのことでした。

試みとして、我が町でも中学生議会などで、子供のうちかぶ、行政や議会について学ぶことは、将来の町を思う気持ちを、育むには大変大事なことではないかと思われました。